大正三年二月一日納本發行（毎月一日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

女子青年界

第拾卷第貳號

目次

◎萬國學生大會祈禱日……小此木松子
◎高貴なる生命……植村正久
◎クリスマスに就て……新渡戸稲造
◎基督と偕に生活すべし……白井胤祿
◎神の國（つゞき）……クドナルド
◎保羅の譬喩（上）……栢井園
◎基督傳の教訓（一）……獺滿生
◎寛恕……ホイナヤー作 森川松榮子譯
◎會の消息……
日本基督教女子青年會本部△東京基督教女子青年會△東北女子青年修養會報告△横濱共立女學校青年會
廣告……

日本基督教女子青年會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東京基督教女子青年會

女子寄宿舍

基督教女子青年會は在東京女學生にして家庭又は適當の保護者のない方々のために家庭に於けると同樣に勉學の出來るやうにする希望を以て現に左の二ヶ所に女子寄宿舍を設け女學生諸子のために及ぶ限りのお世話を致して居ります。

牛込區納戸町四十五番地 第一寄宿舍

舍監 門倉ふじ子

小石川區水道町廿八番地 第二寄宿舍

舍監 大西絹子

入舍希望の方は願書を各寄宿舍々監宛て直接に御送り下さい。又た詳細のことは御照會次第御返事いたします。

又た短期の宿泊も許しますから講習等の爲に御出京の方々にも宿泊の便宜を圖る事が出來ます。

東京基督教女子青年會
寄宿舍委員長 今西糸子

「女子青年界」

一、「女子青年界」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する雜誌也。

一、「女子青年界」は一年分郵税共五拾錢、一部郵税共金五錢なり。

一、日本基督教女子青年會は女子の靈性、社交、智識、體性上の發達を圖るための團體也。

一、日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長 井深花子
副委員長 岡見京子
記録委員 三谷民子
會計 井上友子
萬國基督教女子青年會同盟委員
萬國學生基督教同盟會委員 河井道子
「女子青年界」編輯主任 小此木松子

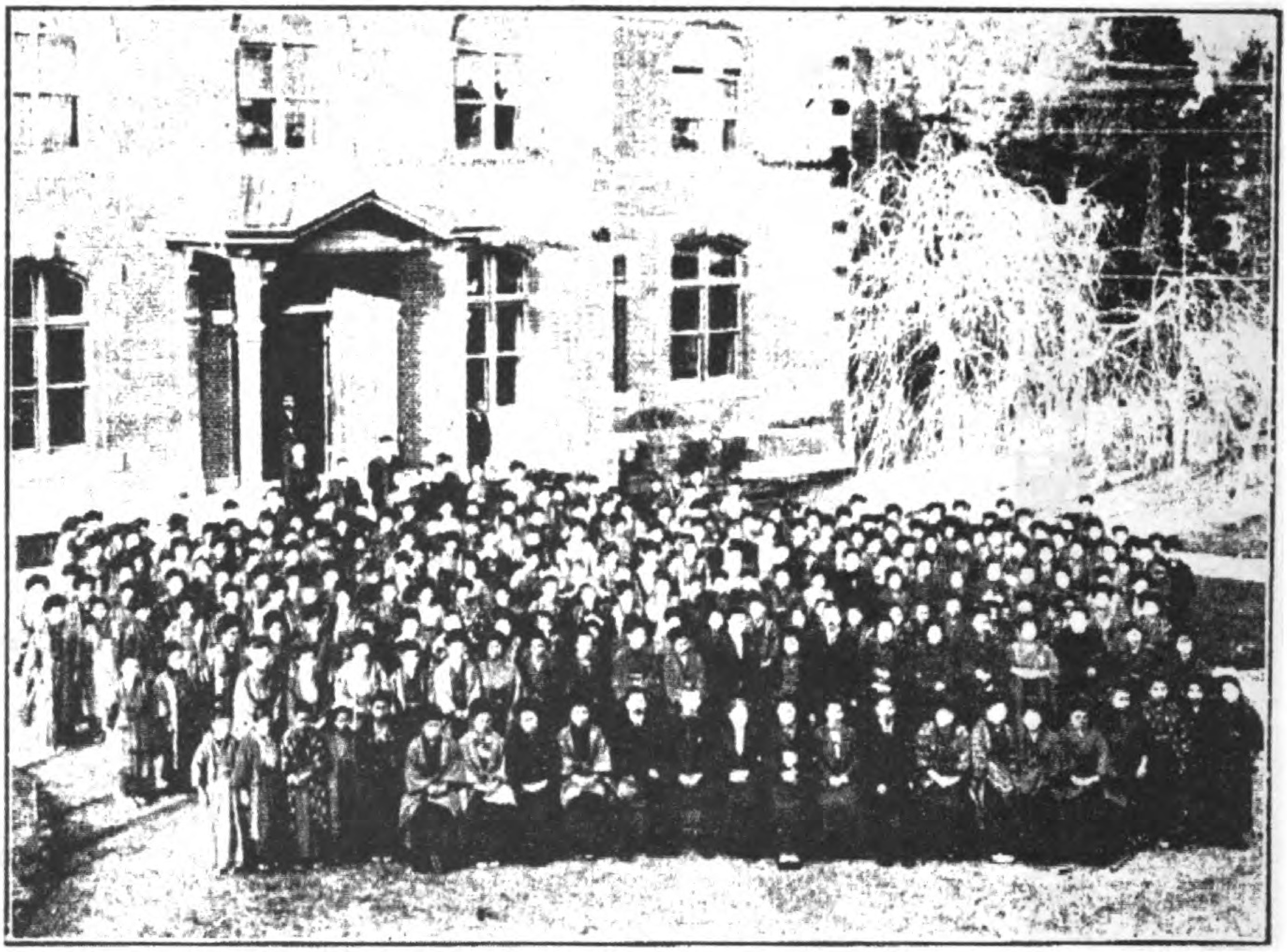
東京在住委員
津田梅子 エ、ピー、ウエスト
鈴木歌子 小此木松子
長谷川喜多子 二宮貞子
ジー、エム、フイシヤー サラ、エリス
山田千代子 イ、ウー、クレメント

地方在住委員
大阪 廣岡淺子 京都 ミス、デイントン
京都 佐伯小糸子 廣島 ミス、ゲイン
京都 松田道子 岡山 上代淑子

幹事
日本基督教女子青年會總幹事 河井道子
同 幹事 エ、ジー、マクドナルド
同 幹事 アール、レーゾン
東京基督教女子青年會總幹事 エム、エル、マシユウ
同 幹事 ジー、アール、ロトホ
同 特志幹事 エム、ベータ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

東北女子修養會（記事參照）



共立女學校青年會役員（横濱）

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

萬國學生大會祈禱日

小此木松子

來る二月二十三日の日曜日は、本年度に於ける唯一の一般祈禱日として、萬國學生大會の制定した日に當ります。此日に於ては、世界の果から果に至る凡そ基督教學生團の有る地方では、大小夫れ〳〵の團體となりて、思ひ〳〵に、此日を守り、感謝と祈禱を捧げる筈で、此學生團に屬する高等教育の學校が、萬國に通じて二千二百、會員總數が、十五萬に達して居ります。是等多數の青年男女が、國を異にし、人種を別にして居るにも拘らず、主の御前には同じ兄弟姉妹として、相互の爲に祈り、自他の爲に感謝しあふといふ事はまことに美はしい事であるばかりて無く、同じ時に同じ思ひを神に訴へ、神に通ずる事に依て、其力は非常なる強さを加へる事となりませう。

凡そ如何なる日に於てでも、吾々信者たる者は、常に禱りの心を持つて居り、吾等の敬愛する者の爲に、我等の憐れむ者の爲に、又は我等自身の進歩發展の爲に、絶えず主の御力を仰いて居ります。然し平日の場合に於ては、我々の考は、啻に狹い身邊の出來事にのみ制限せられ、遠く思を萬國に馳せて、世界の學生青年の爲にと禱る事は多くはありませむ。是が爲に、大會幹部は世界各國に於ける支部の狀況に鑑て、特別に感謝す可き條々、特に主の御力を注がれたき事項等を示し、夫等の爲に、十五萬の會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

員が擧つて、心を盡す樣にと計らはれました。是等條項の詳細に就ては、後日本會本部より、各支部に通信がありませう。

まことに神の前には、人種も無く、國の新古もありませむ。學生大會、或は青年會修養會等にて、多數の方が經驗せられた如く、眞の基督敎的會合に於ては、各國人か各々其國別を忘れて、一つの親しみの中に融和せらるゝ得難い情感を受けるのが常であります。卽ち、偉大なる主の存在の前には、薄弱なる地上の差別區分を忘れ、皆一樣に隔てなき愛の御手に抱かるゝが爲でありませう。此思ひを以て彼の日を過し、心靜かに思ひをひそめて我々學生相互の爲に祈る事を致したいと思ひます。

現代は實に學生の時代と申す如くに、近年に於ける學生社會の膨大は著しいもので、我國に於ては實に容易に此現象を認める事が出來ます。而して高等敎育を受けつゝある男女學生間に、基督敎の眞面目なる信仰を有する者の年每に增加するといふ事は、實に我國の家庭及社會の爲に、最祝す可き事であると思はれます。是を外國に視ますれば、基督敎徒たる者が、殆ど世界各國の大學に敎鞭を執り其國々の最高敎育に携るに至つたのは、まことに近代に初まつた現象であつて、是を過古の歷史に索める事は出來ませむ。特には、最近の支那に於ける學生傳導の良果、露西亞及びバルカン諸國の大學に於ける熱心なる敎理の研究等の如きは最意を强うするに足る可き新傾向でありませう。斯く一方には有望なる發展の途の開かれて居ると同時に、他方に於ては、所謂現代的傾向の盛なるが爲に、眞面目なる信仰心を失ふ者もなく、或は遂に、信仰に近かずして何等立脚地なく、物質の世界、感興の境にのみ生きむとする者も無數に生じました。是れも强ち、我國にのみ限られたる潮流では無く、廣く世界に漲つて居るところであります。斯の如く、新生面の發展に於て、或は時代思潮の危機に際して、學生間は最多事の今日でありますから、一般祈禱日のある事を感謝すると

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

同時に、各支部に於ては、大會、或は聯合會等の煩らひなく、唯各小團體の集りに於て、最意味深く最有益に此日を御過しになる事を切に希望致す次第であります。

尚、萬國學生大會總幹事ジョン、アール、モット氏は、其世界巡遊の途次、來る四月を以て我國にも來航せられますに就て同月初旬には、我國基督敎青年會主催の下に、盛んなる學生大會が開かれる筈であります。何卒會員諸姉には、一般祈禱日に際して此會をも思ひ起され、力あり眞ある基督の僕を通じて吾々學生の上に大いなる刺戟と決心との來らむ事を御禱り下さる樣に希望致します。

電話の開設と振替貯金加入

今回、日本基督敎女子青年會本部と、東京基督敎女子青年會とへ、電話を架設することゝなり、又た、振替貯金に加入致しまして、昨月より開始致しました、番號は左の通りであります、

電話

番町四五六三　日本基督敎女子青年會

番町四五六二　東京基督敎女子青年會

振替貯金口座

東京貳參七貳參番　日本基督敎女子青年會

東京貳參八貳參番　東京基督敎女子青年會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

高貴なる生命（講話摘要）

植村正久

家の大掃除をなすのに多くの方法がある、或は綺麗好きの人もあり、或は虎列拉病を怖れて周章狼狽して疊をあげて石灰を撒いたりする人もある、役所からの所罰が恐しくて義務的お義理の掃除をする人もある、それは本當に樣々なものである、何れも宜しい、結構だ、だが其他にもう一の仕方がある、卽ち家の主人が外國から歸つて來るとか、婿取り嫁入りがあるとなると家の中は大騒ぎで、喜び勇んで家中を綺麗にする、此の方法は前のものとは大に性質を異にして居る、

道德上から點考して、あゝ自分は多くの缺點の中に生存して居るから、一つ決心して偉ひ人間にならうといふのは、前にいつた中の第一の潔癖にあたる其第二第三は世間普通のものである、そして後者卽ち家の隅々まで能く注意の行き屆くのは、恰も宗敎にあたるのである、

身體は活る聖靈の殿であつて、我等は神に仕へ之を愛し、主イエスキリストを愛し歡迎するとの事が、起りとなつて、精神の修養やら自己に就ても眞面目な考が生ずる、そこが信仰なのである、であるから世間普通のものと宗敎との差異は明瞭となる、

宗敎は多いが、中でもキリスト敎は何かといへば卽ち天に在る唯だ一人の活ける神を信じ、其を我等の父と呼び我等は其子であり、其深き思召卽ち所謂愛はイエスキリストに依り又其十字架に依て明かに了解されて居る、これが此敎である、神は父であり愛であると信ずるのである、

我等は同じく神の子と稱へても、キリストと比較

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

すれば大きな差がある、一概に神の子といつても差別が立たぬ故、其意味を明らかにせねばならぬ、「神の子」にかういふ意味がある、

第一は其生れ、魂の組立、其成り立ちを考へれば之れ正しく神の子である、善惡を見分け、信を以て神に仕へるだけの心を持つて居る、そして、其心を分解して見れば確に神の子たるは瞭然として居る、外形から見れば誰でも神の子である、靈の組立や成立を考へて見ても、人間すべては神の子である、

しかし、品性が備はらなければ、人間でも人間らしくないといふが、成程、一寸考れば神の子として相應しいやうに思はれても、其精神の持ちやうを考へると零になる、即ち人間の裏には敵を愛するといふ靈の働がなければ神の子とはいへない、

子供は己の家を樂園のやうに思ふべき筈であり、又たすべてを信用するのが當然であるけれども、どうも我々は此世に居て住み心地が惡くて心配ばかりして居る、家の人だ〳〵といふけれども、どうも心配が多い、それでは神の子たる特權が無いと思ふ、其樣子を見れば子供に違ひ無いやうだが、何處かに子供らしくない點がある、

人間は神の子に相違ない、けれども其精神狀態を見ると神の子に相應しくない、其處が罪といふ心の曇りなので、即ち靈の事柄を見ると神の子には相違ないが、大切な精神狀態が惡るいのである、

キリスト教でいふ罪とは、靈の人相や骨柄を見れば神の子に違ひなくとも、精神の狀態を立派に構へて親に氣兼ねをせずに繁く往復交通する事の出來ない事をいふのである、故に、罪とは盜賊をするとか詐僞をするとかいふのではない、唯だ神の家に於て子たる相應しい品性を有たず、不甲斐ない心をもつて居るのが、其れである、

家を勘當されて親子の交りの出來ない樣な手前勝手な、自分一人の實に寂しい哀れな力のない利己的の生活が取りも直さず、罪なのだ、

實に之は淺間しい生活である、どうも濟まないこ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

とである、折角神の子として生れて來たのにと思ふても、心を碎いて神の家に入る卽ち祈禱することなごは、薩張り出來ないのである、

人間は皆不完全であつて、子でありながら其資格が無い、併し、唯一人イエスキリストのみは其資格を有ち給ふて居る、

親の意見に目が醒めて本心に立ち返り悔改をなして、主イエスを賴みて神の前に跪き神の家の僕の一人となし給へといふのが信仰で、汚れなく優しい賴もしい心栄えである、そこで、我等は神に依り罪の赦しを得る、神の赦し、あゝこれ實に嬉しい事ではないか、

我等人間たるものは常に神の子となりたい、眞に其性質を備へたいと切に願ふに至るものである、神の赦があつて初めて人の心は活きる、卽ちクリスチャンは神に赦されたる生活をするもので、キリスト敎では新しい生命といふ、

我等は單に一限りない命「新しい生命」といふのでは了解されない、過ぎ越し方を省み悔改めて始めて生命は生れるのである、

さらば、生命とは何か、勿論數多の要素はあるであらうが、單に考へて見ると、

第一に神を愛する愛が無ければならぬ、

第二に神の家と趣味が合はねば駄目である、神の家には其家風がある、流儀もある、それ等が能く解得されねばならぬ、

第三は神の命令に能く服從することで、神の言葉を柔順に學び且實行せねばならぬ、

言葉を換へて曰へば、是迄は未だ有せなかつた生命を、神の赦に依つて得るから、卽ち其れが新しい生命なのである、今までは詰らないことに、くよくよして居たのが、神の國を考へ高尙な天を思ふ力が殖え、趣味も豐かになる、此生命を賜はると人間が全く違つたものになる、私が二十何年か前に倫敦へ行つた時に、彫刻物の展覽會を見物に行つた、其途中で巡査に道を聞いたら其巡査は人形であつた、能く

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

見れば本當の人間とは丸で違つて居た、本當の人間ならば其持つて居る靈の光が顏に輝くが、人形には其形姿がどんなに能く出來て居ても其輝は無い、新しい生命を得れば内面のみならず外部にも大した變化が現はれる、我等は心の中に永久の生命新しい生命を得て活氣に滿ちた者とならねばならぬ、七福人の中には福々しい人もあれば可愛い娘もあるけれども、品もなければ見榮えもない、立派な繪に書くことも出來ない、詰り其は世間普通の生活をする人間達に過ぎないからである、世の中には行ばかりを言つて二宮尊德よろしくといふやうな人があるが、其結果は七福人の中の一人のやうになる、木の根や石の塊のやうな人が多い、

主イエスキリストやマドンナの繪に於て神々しい輝きを見る如く、若しも我等が眞の生命を心に得るならば、假令其を隱さんとしても其美しさや神々しさが自然に現はれる、之を神聖といふのである、

我々は、この貴い高い生命を得て神の子たるに相應しい生活をする迄に進行きたいものである、

（文責在記者）

クリスマスに就て

（聖主降誕節祝會の際講話せられし大要）

新渡戸稻造

一體キリストは何年何月何日にお生れになつたか歷史上分らぬ。今から千九百十二年前の十二月の二十五日といふのは後での話であつて、事實とは數年違ふ上、月日もよくは分らぬ。朝鮮の一寒村の小事故を東京の新聞が書くことはない、恐らく朝鮮の新聞と雖書かぬであらう。つまり大事と思はぬからである。名もなきユダヤの一村の名もなき夫婦に子が生れたからとて、その年月日の正確に傳はらぬも敢て怪しむに足りない。

然し名もない村で名もない人間から生れた人間が世界の思想界をひつくりかへして、王位や富を無視してしかく一小村の人にして、世界の歷史を變ふるに至つたといふ事は實に人間わざではない。

降誕日が不正確といふが、キリストの誕生日はい

つでもかまはぬ。普通の人のでも事實と戸籍帳と異ふ場合はいくらもある。然し戸籍がいかに不明でも現に生きて居るといふ事が事實である。實行が存在の證據である。キリストの靈的の力が世界を蔽ふて居るといふことが卽キリスト存在の事實である。キリスト實在のおのおのに於ける證は、キリストがお互の心に生れたか生れぬかの問題で決まるのである誕生の如何は己の心にある。諸子は今夕にても己の心を省みて、キリストわが心に生れ居れりや否やといふ事を確めねばならぬ。キリストの歴史的事實を判ずるには、キリストの働と權威とが世を蔽ふて居ることを以て知る。諸子は又心に問ふて、消極的には人を嫉むやうな事、憎むやうな事、愛が無くはないかといふことをしらべ、積極的には敵を愛する心は如何とおもひ、世に處するに己が心は平和であるか、滿足をして居るか、愛憎の念は如何かといふことを調べれば、キリストの實在如何が分るであらう虚榮心、—學問を振り廻したり、位地に誇つたり、見せびらかすこころ—此心の在る所は卽ちキリストの生れ居らぬ證據である。此心は日本のやうな貧乏國にあつては殊に注意せねばならぬ。三度の食に不平を云ふ人は一度の食さへ得能はぬ人を思ふて、感謝するがよい、況して衣服の事などは猶更然るのである、人は其の衣服を着る目的を思ひ、その權威を忘れてはならない。キリストのキリストたる所以はその虚榮心のない所、貧者と交る所にある、ゲーテの言葉に

『涙を流して一片のパンを食べしもの、或は一夜を眠らずして過ししものにあらずば、ヘブンチーパワー(あはれみ)の何たるを知らず』

といふのがある。一枚の衣を着るにも、之を買はれし父の勞、之を縫はれし母の勞を思ふがよい。天の我等に恩惠を與ふるの何ぞ大なるといふ事が分ると卽ち心が充ちる、心充つれば不平なく思は安く心は暖い。余が在米中感じたのは實に此心であつた。

或る村のとある家に宿つてゐた時のことである。此

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家の主婦は十一歳と九歳と六歳の子女を女の細腕一つで育てて居た、弟が次男を貰ひたいといつても、自分の働ける限りはといふて承知をせず、一手で三人を養育して居つた。實に粗衣粗食、到底十分などとはいはれぬ暮しであつた。或時余が長子に菓子を與へると彼はそれを次子に讓つて『いいものが澤山あるからいりません』といつた。實に此心、余は一生之を忘れぬ。此子は何を持つてゐるかといふに、粗衣と粗食とのみである、さるに他の子には父もある、其上衣服に何の不自由もない、之を見たなら羨しい嫉ましいの念も起らうに、さはなくて滿足して居る。實に其の一言に虚榮心のないこと、滿足の念、感謝のおもひが凡て含まれてゐる。キリストが我等の心に生れ玉ふといふ事は、此の心即感謝滿足平和の三者が心に生れることである。かの天使がうたつたといふ『神にはみさかえ、地にはおだやか、人にはみめぐみ』といふあの歌、地には平和人には惠、我等にして此の心を感じ得れば、實にこれ何よりのクリスマスである。世の中には不愉快な事が多い、朝夕善をつとめても、どこでどんな人が、惡計を爲し中傷を企ててをるか分らぬ、實に世は不愉快なる事に充ちて居る。此中に在つて此の世を平和と恩惠の心を以て渡ることの出來る人は、眞に心にキリストを認めた人なのである。

豐なる生命

我來るは羊をして生命を得、かつ豐かならしめん爲なり

若し人が「あなたは生きて居りますか」と問ふものがあれば、誰れでも「然り」と答へるに躊躇するものはない、しかし、既に生きて居る以上は、强健なる生命に生きねばならぬは勿論である、キリストが此世に降り給ふた理由は、人に生命を與へるためであつた、この生命を受けないならば、其は基督者ではない、既に此生命を受ける以上は豐かに之を受くべきである、單に生命があるといふ事は餘り立派な事ではない、自由の利かぬ病人でも生命はある、キリストの生命はあるといつても信仰上の病人では仕方がない、今日は、基督者が活動すべき部面は無限である、眞に、活躍する基督者を要する、信徒たるもの此の豐かにの一語を味ふて、キリストの生命を受けるやうに祈つて止まない、

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

基督と偕に生活すべし

白井胤祿

道に入り、信仰に進むには、何う云ふ方法を取れば、最も健全に發達するでせうか。是れは屢ば求道者や初心の信者から提出される問題であります。此の點について極めて單純な、極めて實際的な方面を御話して見やうと思ひます。

此の問題を考がへますには基督在世の當時、世の多くの人が彼に接近した有樣を見れば、大いに參考になると存じます。基督の譬喩にもある通りに、彼に觸れた人々のうちには、宛ら路傍に落ちた種のやうに芽を出す間もないうちに鳥に啄み去られるものもあり、石のうへに落ちた種のやうに芽は出たが土が薄い爲めに直ぐ枯れて了つたものもあり。棘の裡に落ちて十分の發達を遂げ得なかつたものもある。要するに此等は一種の好奇心や利慾や野心から基督のもとに來たもので、通りがゝりで其の敎を聞き、又は其の驚くべき行爲を見た位、少し立ち入つて研究して見たものもあつたが徹底するほどに進み得なかつたのである。ところが弟子だちは好く耕された地に落ちた種のやうに逞しい芽を出し、やがて立派な果を結んだ。是れは彼らが每日耶蘇と偕に生活して、其の日常生活の有樣を見、其の人格の直接の感化を受けたことが、健全に信仰に進むの大いなる助けとなつたことであります。此の事實から自分は道に入り信仰に進まんと欲する人に先づ基督と偕に生活することを勸めるのである。人に勸めるのみでなく、自分も亦之を努めて居るのであります。單純な方法ですが、然し甚だ有効なものであります。例へば友人を知るにしましても、爲たことを見たり、書いたものを讀んだり、話を聞いた位では、何うもまた痒いところに手が屆かぬやうな憾がありませう。基督敎は基督の宗敎で、基督が其の中心であります。基督を知ることは卽ち基督

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

教を知ることであります。それで基督を知りますにも、其の思想を研究し、之に關する議論を取り調べることも、大切ではありますが、之と共に、寧ろ之よりも先きに基督と偕に生活する方が、彼を熟く會得することが出來ると思ひます。

古い書物に、或る藩の殿樣で刀の鑑定に長た人があつた。或る無銘の刀を鑑定して是れは相州の正宗であらうと見定めた。之を本阿彌のもとに持つて往つて、鑑定させた。本阿彌は何う見ても正宗とは見えず、是れは志津であらうと云つた。ところが殿樣は之を拒み、正宗に違ひないから尙ほ研ぎ試みよ、若し正宗になつたら持つて來いと云つて歸られた。其れから本阿彌は注意して研いて見たが、一向に正宗らしい鍔が見えぬ。其の內に年を經て殿樣は死なれた。其の次の代になつたとき、一日本阿彌が例の刀を持て來て、先君の御明察恐れ入ります、愈よ正宗になりましたと云ふ。家老ども不審がりて其の理由を尋ねますと、是れは或る老人の後生願ひから此のことが解りましたとて『其の老人或時來ての話に我ら此程は後生の願やうをかへ侍る。只今までの願やうこそあしく覺え候へ、このあら凡夫の身として俄かに佛にならんと願へばとて、佛になられ候ふ心きか、佛にならんとならば先づ善き人にならんと願ふべし、善き人になりて後佛を願はゞ佛になるにたよりあるべしと語りしを承りて、是れは尤なる事にこそ、彼刀もすぐに正宗の鍔にせんと研ぐ程に反つて正宗にならざるにてあらん、それより近き志津にして見ばやと存じ候て、志津の鍔を志して研ぎ候へば、やがて正宗に似より候程に、さてこそと存じ、いよ／＼心にいれてとぎあげ候へば、やがて正宗になりて候といつたさうであります。興味ある物語と思ひます。世の中のことはすべて斯うしたものです基督を知るにしましても、彼は神だとか人だとか云ふ議論を頭につめ込んで研究しますと中々基督が解り難いのです。試みにナザレの耶蘇人の子たる基督と偕に生活することを志した方が早解りがする。神

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

の子として見ると然う思へぬ節が出て來るかも知れませんが、人の子として見やうと心懸げますと却つて神々しさが增し、とても只だの人間としては收まりのつかぬ香がする樣になります。基督を神とすることを好まぬ人たちでも、其の品性の淸く高きを見ては、彼の神的なるは我々人間の神的なるとは、其の性質を異にするほどに高いと申します。私どもは基督に於て人となり給ふた神を見たてまつることでございます。

信仰に進みますにも、矢張此の順序で、手近なところから一步一步進んで行くことが大切と存じます、一躍して佛にならうと云ふよりも、善人になるが第一步とだと悟つた老人に學ぶところがありませう。先づ自分に理會され得る基督の精神を取つて、之を熱心に實行してかゝることが大事です。基督と一緒に生活して、其の日常生活の有樣を見たならば、我々は何う云ふ心持になりませうか。

第一に基督は生活問題を何う云ふ御精神で解決しまた實行して居られましたでせう。生活問題は我々には直接の問題です。靑年に取りましても、さし響きの多いものであります。基督の生活の有樣を見ますに、荒野で此の問題に苦しまれたまふたときの如きも、『人はパンのみにて生くるものにあらず、神の言によると錄されたり』と解決せられました。また馬太傳第六章の終りの方を見ますと、空の鳥、野の花を引いて神の攝理の妙なるを說き、生活問題について餘り屈托してはならぬ。其れは人生の第二、第三の問題であると敎へられ『天の父は凡て此等の無くてならぬことを知りたまへり。汝らまづ神の國と其の義とを求めよ、然ば此等のものは皆な汝らに加へらるべし。此の故に明日のことを憂慮ふなかれ、明日は明日の事を思ひわづらへ、一日の苦勞は一日にて足れり』と云はれた。基督は自ら此う云ふ風の生活をせられたのです。此程も田川大吉郎君が某所で演說し、自分は貧乏をして家內から米櫃の空虛を告げられたことも少くないが、其のたびに必ず思ひ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

設けぬところから金が入つて忍ぶ能はざる困難と云ふものは決してない。此う云ふ經驗が度かさなつて來ると何うしても基督の云はれたことが事實其の通りであると確信せざるを得ざるに至つたと話された自分で之に裏書きをしたいと思ふのです。年の終など一年中のことを考へて來れば必ず此う云ふ神の不思議な、行き屆いた、極めて親切な攝理を認めずには居られない。基督と共に此う云ふ生活をすれば、先づ何が解りませう。我々は日々神の限りなき愛の御手に護られて居ると云ふことが理窟でなく事實に於て解るではありませんか。

第二に基督の一日中の生活の有様を見ますと、休まるゝ隙だにもないほど勞働せらるゝことが目につきます。其の活動せらるゝ工合が尋常でないのです。忙がしく活動する人は多いのですが、基督のお忙しいかつたのはまた特別であります、そして何と仰せられるかと云ふに、神は今も尙ほ活動かるゝから我も活動くのであるとある。聖書の記者は彼の生涯を概括して普く廻歷りて善き事を行ふと云つて居ります。敎を說かれる、病人を癒される。煩悶せるものを慰められる、疲れたるものを勵まされる、小兒を祝せられる、罪人を悔改めさせられる。在らゆる善い事、義しい事、眞なる事の爲めに少しも油斷なく御活動なさつた。我々基督と共に生活をしますと、自然に義に勇さむ心が燃されます。或る弟子は基督と一緒に步きながら話をして居りますうちに、心燃ゆるを覺えたと云つて居りますが實際我々は基督と一緒に居ると、眞善美を慕ひ、之が爲めに力を盡さねばならぬ氣が旺んに起つて來るのでございます。基督は斯く倦むことなく勞働することを以て、神の事業を爲るのだ、神の使命を果すのだ、聖旨を行ふのだと仰つた。我々は基督の生活を見て、勞働の神聖なるを知り、また善い事の爲めに己を忘れて勵むべきものであることを知り、更に人間には神の使命があつて、我々は皆な何かしか神の大いなる御事業の一部を爲しつゝあるものであることを知ることが出

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

來るのであります。

更に基督の一日の生活のうちで最も重要なものは祈りであつた。我々の生活では祈りは生活の附錄のやうになつて居ますが、基督に取つては最も大切なものでありました。其の生命の源泉でした。若し我々が基督の祈つて居られるところを拜見したならば何うでせう。其の姿や態度の神々しさ、恭々しさ、氣高さ、美しさ、想像も出來ぬものがあります。人生は只だ面白ろ可笑しく浮いた調子で送つて能事足るものではありません。此のやうな極めて森嚴な眞面目な要素があることを思はざるを得ません。其の祈られることを聞けば、其の愛に感泣し、其の恩寵に感謝する念で滿ち溢れて居る。其の御心に一致することを常に心懸けられ、從順にして思想も趣味も神と調和して居られたことを知ることが出來ませう又基督の祈りは自分のことのみでなかつた、其の多くは他人のことであつた。所謂身代りの祈である。十字架の上でさへ先づ祈られたことは、自分の事でなく、自分を殺すもの丶爲めであつた。『父よ彼らを赦したまへ、彼らは其の爲すところを知らざればなり』。此のやうな雄大な崇高な森嚴な祈を聞きますと我々のやうな頑固な鈍い靈魂でも燃やされずには居られません。覺醒せずには居られません。罪の感覺も鋭くなり、神の愛、救の恩寵なども次第に考へずには居られなくなるのです。かくて我々は基督と偕に生活することが日を重ねるに隨ひ、ペテルの如く『主よ汝を去りて何れに往かんや、限りなき生命を有てるものは汝なり』と叫ばざるを得ざるに至ることである。

○正誤　前號白井氏の修養雜話中一九頁一行化物主義は唯物主義の誤植につき茲に訂正す

わが要求
高き生活の標準
人生の特權と權威の實現
尊き個人性の識認

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

神の國（つゞき）

エー、シー、マグドナルド

そして、此のやうな生命は此の世の中の人々は最早受けて居りますかといふことに就て考へて見ますならば、私は實に心細いやうな感がするのでありまして本當に心の清い人を除ては決して受けて居りませんといふ事を思はねばならないので御座います、私は毎日道を歩るく時に其行き違ふ人の顔附きに氣をつけて見ますと、其の人々の中には何となく其内心が顔色に現はれて居るやうに見へることもあるので御座りまして、其等の人々の中には本當に神の生命に連つて居るといふ人は殆ど少ないやうに思はれるので御座ります、私は東京のもので度々東京の電車に乘りますが、其時分に同乘の人々の顔附を見て何時も一般の人々の様子はどうも精神的方面の缺乏があるを示して居るやうに感ずるのであります、キリストが此の世に居らつしやいました時に、すべての人は皆神の子であつて神の生命を受くべき筈のものであると仰しやいましたので御座いますが、爾來二千年を經過しまして世は二十世紀の今日になりましたが、精神的方面の缺陷は依然として舊態を存して、キリストの仰つしやいました様な事實は未だ見えません、抑も如何なる理由でありませうか、

思ふに、大抵の人々は、此の人間卽ち自分は神を父とする子供であるといふ事が確であると信じません、かういふやうな人々は到底神の生命に連ることは出來ないのでありまして、私共が常に見るやうな不安な狀態に在ることは實に止むを得ない次第であると思ふので御座ります、若し、幸に、さういふ大切な問題が此の一般の人々の心に解決せられるやうになりましたならば、其と共に私共人間は自己の身體をも重んずるやうになりまして、心と同じく身體をも神の居り給ふ殿として清くして獻げる筈であるといふ事も覺るやうになると信ずるのであります。けれども、現在の人々の有様は中々其所迄には成つ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

て居りません、殊に個人の上ばかりでなく此の社會の實狀は神の御旨に離れて居ることは甚しいものでありまして、此の世の中は未だ實際に神の殿になつて居りませんことは我も人も共に認め得られる所で御座いまして、此の人間が凡て殘らず神の子であることを自覺して神の生命を受ける時までは此の世の中は本當の神の國卽ち神樣の支配の行はるゝ神樣の居所として適當なる場所になることは望まれないと深く信ずるのであります、

キリストが此の世に居らつしやいました時には勿論個人的に御働きになりましたけれども、其個人的傳道の事に就てよりも神の國は此の世の中がキリストの精神、主義、勢力などに支配せらるゝことが出來るやうになる筈であるといふことを敎へられましたので御座います、私共も亦キリストの精神に從つて行きたいと思ひますならば、個人的に傳道することは言ふ迄もない事でありますが、其と同時に社會一般の有樣にも注意いたしまして十分力を盡して働かねばならんと思ひます、そして、さういふ樣にしてキリストの精神に從ひますならば個人的にも社會的にも盡すことが出來るのであると思ひます、又た此の世の中に在る神の國に於ては私共はお互に兄弟姉妹でありまして互に相愛し相仕へて神の御心に適ふ事を行ふ筈でありまして、さうすれば終に此の世の中を神の國にする事が出來るので御座います、昔しキリストの弟子達がキリストの神の國に就てのお話を聞きました時に非常に喜んで、私共は其神の國が出來上れば無論其神の國の大臣になれるであらうと考へました、そして、或日弟子の二人はキリストの側へ參りまして「主よあなたの國が出來上りました時には何卒私共二人を左右の大臣にして下さい」と願ひましたので御座います、しかし、キリストは其弟子に向つて「あなた方は私の國の大臣の義務或は責任に就ては能く分らないでせう、私の國卽ち神の國の大臣の一番大事な務は自分のものを捨てゝ自分を忘れて人のためにする事であります、あなた方はさ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

ういふ務をする事が出來ませうか」と御答へになりました、其時二人の弟子はキリストの言葉について深く考へませんで直に「私共には屹度出來ます」と申しましたとありますけれども、後でキリストの精神が能く分りました時に、神の國の國民となる資格と其修養は中々容易の事ではないといふ事を覺るやうになりましたのであります、眞に此の神の國の眞意義を了解して其國民として耻しからぬ性格を備へる事は容易の事ではないのであります、

それから、此後に御承知の通りパウロといふ弟子がありましたが、此人はキリストの直弟子ではありませんでした、しかし、神の國の意味に就て更らに十分に分るやうになりまして、キリストの敎へられた神の國は決して或る範圍に限られたものでなく、世界中に廣がつて居る精神的の國であるといふことを明に言ひ現はしまして、人は假令何處から來ても何處に生れても國や所は違ひましても皆相愛すべき同胞であると誰の前にも主張いたしました、其事はキリストを信ずるものに取つては別にむづかしい事では御座りません、神樣は私共の父の神であれば勿論私共は其子供でありまして、私共お互は兄弟姉妹であります、此の信仰の前には國境もなければ人種の區別もありません、又た男女老幼乃至身分の差別もありません、パウロは此のことに就て度々敎へて居りますが、加拉太書三章二十六—二十八節の「爾曹皆キリスト、イエスを信ずるに由て神の子となれり……斯る者の中にはユダヤ人またギリシャ人或は奴隸或は自主或は男或は女の分なし、蓋は皆キリスト、イエスに在りて一なればなり」とあるのを讀んで見ますならば、其精神も其主張も能く分るのであります、私共一般の人々が此の一事を心から深く信ずるやうになりますならば、此の世の中は直に見違へるやうに改善する事が出來るのを疑ひません、

何千年かの昔にイザヤといふ預言者が有ましたが其時代の社會の有樣は非常に困難な時代で御座いました、處がイザヤは其時代の國民に向つて預言を致しました、其は其時代に於ては勿論預言で御座いましたが、其事實は廿世紀の今日でも未だ實際になり

ませんですから、今でも未だ矢張り預言といふことが出來ます、けれども、私共は全心全心を盡して此の世の中を神の國とするために働きますならば、其預言を今日の我々の社會に於て實際にすることが出來ないとは限りません、其預言は以賽亞書二章四節に「エホバはもろ／＼の國の間を鞫き、おほくの民をせめ給はん、斯くてかれらは其劍をうちかへて鋤となし、其鎗をうちかへて鎌となし、國は國に向ひて劍をあげず、戰鬪のことを再びまなばざるべし」とある此の言葉で御座います、此の預言を實際にする事は實に大なる働であります、大なる働には違ひありませんけれども、若し、私共がキリストと同じ精神を以て全心全力を盡して世と人のために仕へて神の榮を現しキリストと同じ信仰を以て其國建設の成就に熱中致しますならば、其成功の日は決して遠くない事を信ずるのであります、私は皆さんと共にガルバリヂーの熱誠に習つて、此の世の中での一番大切なる獲物である神國を建つる爲に畢生の力を致したいと祈つて止まないのであります。（完）

聖書研究

保羅の譬喩（上）

柏井園

基督の敎のうちに種々の美しい譬喩のあることは人の良く知れる所であるが、保羅の書翰のうちには譬喩は之れに比べて多くない。あるものも基督の譬喩とはまた頗る趣を異にして居る。耶蘇が其の生涯の大部分を田舍に送り自然の態や又田舍の單純な生活に親まれたに反して、保羅は大都會の人である。キリキヤの首府タルソスに生れエルサレムで敎育を受け、北亞細亞、希臘の各都府に道を傳へ、終に羅馬で血を濺いだ。其の興味を引く所は自然の美よりも寧ろ人事の活動である。茲に聊か保羅の譬喩を研究して見るも亦益無しとせぬであらう。

凱旋式の譬喩

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

羅馬帝國が南征北伐、四方の敵國を征伏して其の時々に祝ふた凱旋式と云ふものはこの上もなく華麗盛大なものであつた。保羅は實際凱旋式に臨んだことがあるかどうか分らぬが、其の壯觀は之を聽くだけでも彼の胸を躍らすに足るものであつた。されば彼は基督者の勝利を將軍の凱旋にたとへた所がある。

コリント後書二〇十四に左の言がある。

常に我等をしてキリストに在りて勝を得せしめ且つ彼を知るの香を我等をもて遍く示す神に感謝す。

ここに「勝を得せしめ」と譯してある原語は寧ろ「凱旋せしめ」或は「凱旋に導き」と譯する方が適當である。英譯の聖書にはtriumphと云ふ字を用ひてある。保羅をして此く凱旋を感謝せしめた事情は一々ここに語ることが出來ぬ、又曾て此の誌上に書れたこともあるが、(昨年八月號以降『哥林多後書の研究』參照)、兎に角コリントの教會に保羅に反對するものが興り、教會員も彼の精神を了解せずしていろ〳〵心配すべき事があつた。彼は或は手紙を送り、或は親ら訪問して誤解を釋くことを力めた其の苦心空しからずして終に彼の赤心が貫徹した。反對したものも非を悔ゆるに至つた。保羅は喜び溢れてこの凱歌を揚げて居る。基督者の勝利は基督に在つて獲らるる勝利であつて又必ず勝つ軍である。故に常にの一語を加へて居る。この一語は彼が長き生涯の經驗から發したものである。それから更に面白いとがある。續いて彼を知るの香と云ふことがあるが、これは羅馬で凱旋式の祝はるる日には市中の神々の宮で香を焚く風があつて、其の香り滿都に薫ずると云ふ有様であつた。保羅がここに香と云つたのは蓋し之に因んだものであらう。これ信ずべき學者の説である。眞に耶蘇を知れる人には人を薫する香がある。花は美しいのみならず佳き芳芬がある如く、聖徒の氣高い品性には香があるのである。これはただ人を喜ばするためでなくして、保羅が云ふには人を活殺する

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

力がある。『亡ぶるものの爲には、死の香にして彼等を死に至らしむ、救はるる者の爲には生の香にて彼等を生に至らしむ』となる。それは驚くべき文章と云はねばならぬ。しかしこゝに一々説明することが出來ぬ。たゞこれ等の譬喩のうちに限りなく我等を勵し又敎ふる所なることを注意するに止めたい。

兵士と角力と農夫

テモテ後書第二章三節以下にこの三のものにたとへて基督敎たるものゝ心得を示して居る先づ曰く

兵卒を務むるものは世事を以て自己を累はさず、これ募れるものゝ心を悦ばせんとすればなり。

兵卒たるものは兵營にはいつてから專心一意調練を勵んで紛々たる世間の俗務に係はらぬ。この手紙は保羅が弟子テモテに贈つたものでテモテは傳道者であるから專一に其の職に力を集中すべきを敎へたものである。普通の信者に至りては俗事に係はらぬと云ふ譯には行かぬ、世の事に活動して其の間に主の榮光を彰すべきであるが、それにしても世に事ふるでなく、心を專にして事ふべきは基督である。我等は基督の精兵とならねばならぬ。訓練の良く足りた兵士でなくてはならぬ。それが爲には苦を忍ぶと云ふことが必要である。平生の訓練に於ても又戰場に於ても暑さ寒さ風雪を凌ぎつらき事に堪へて戰はねばならぬ。しかもこの間に言ひ難い勇壯な又樂しい所があるのである。基督者の生活には今一層の克己を要する、然らずんば訓練せられたものとなることが出來ぬ。こゝは昔の修道院の生活に於て學ぶべき事である。然して良く苦みに堪へしむる動機は無論義務の念から出づべきものであるが、基督者には之より高き動機卽ち神を悦ばし基督を悦ばすと云ふ事がある。自分を愛してくれるものを喜ばすと云ふ事は最も人を動すに足る力である。故に保羅は『これ募れる者の心を悦ばせん爲なり』と云つて居る。こゝに於て彼は譬喩をかへて

もし力を角ふもの法に遵ひて角はずば冠を得ずと

云つて居る。これは角力から喩を取つたものであ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

る。角力に尙ぶ所は其の法式が正しく勝負が堂々として居つて卑劣な手をせぬことである。勝つにも負けるにも立派ならねばならぬ。基督者は學問をするにも世間のことをするにも又遊戯をするにも見苦しいことゝ汚ない手段を避けて奇麗にしなければならぬ。近頃の政治上の事を見ても何故西園寺侯の內閣が破壞してかくも世人の同情を得たか、官僚派が勝ちながら何故斯くも激しい反對憎惡に圍まるゝか、前者が進退の正大であつたに反して後者の手段陰險であつたからである。保羅は曰く「恥づべき隱くれたる事を棄てゝ詭譎を行はず神の道を亂さず眞理を顯して己を衆の人の良心に質すなり」(哥後四〇一)我々信者は信仰を隱したり又態度を曖昧にするとなく眞を打ち出して人の良心に質すやうにすれば必ず勝つ、負けても勝である。

然れども基督者の生活には又他の方面がある。それは百姓の事にたとへれば最も良く解る。故に曰く勤勞つたる百姓先づ實を得べきなり

百姓の仕事には少しも花々しい所はない、勝を一戰に決すると云ふやうな花々しい處はない。粒々辛苦の外に途はない。然る後涙とともに蒔きしものは歡喜とともに穫りとらん、その人は種をたづさへ涙をながして出で行けど禾束をたづさへ喜びかへり來らん(詩百二十六〇五、六)と云ふ收穫の秋に逢ふことが出來るのである。基督者が自身の修養をするにも又傳道をするにも、一攫千金と云ふ樣な事は望まれぬ。日又日兀々汲々として勞を積み年を累ねて後感謝の秋を迎ふるのである。與へらるゝ報賞は勤勞に比例する。賴山陽は曰く『我を才子と謂ふ未だ我を悉さゞるものなり、我を能く刻苦すといふ者は眞に我を知る』と。カアライルも天才とは骨を折り得る力を云ふと云ふやうなことを云つて居る。たゞ更に感謝すべきことは靈界の勤勞に於ては、我等が受くるに値するよりも更に豐な收穫が與へらるゝと云ふことである。保羅が云つたやうに神は『我等の思ふ所よりもいたく優れることをなし得る』神である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

器の譬喩

保羅は信者を器にたとへた所が多い。

我等この寶を瓦器に藏てり、これ大に優れたる能は我より出づるにあらず神の能なることの顯れん爲なり(哥後四〇七)

大なる家の中には金と銀の器あるのみならず木と土の器あり彼は貴きに用ひ此は賤きに用るなり。人若し此等を離れて己を潔くせば貴きに用ゆる器となり潔くして主の用に合い諸ての善き事を作すことを得るなり(テモテ後二〇二十)

陶人は同じ塊をもて一の器を貴く一の器を賤く造る權あるにあらずや(羅馬九〇二十一)

この器と云ふ事につきてはいろ〳〵云ふべきことが少くないから更に次回に於て說明することゝしたい。

前々號より續載したる「基督と人生」と題する文章は筆者の都合により一旦休載してこの新しき題目に改むることとせり讀者諒せられんことを乞ふ

基督傳の教訓

彌滿生

(一)基督の働の準備

基督傳を研究すると、私共の修養に資すべき點は實に多いのであるが、就中、私共の學ぶべき數個條に就て述べて見たいと思ふ、其第一は、基督が其働に從事する前に十分の準備をしたといふ事である。

基督が此世に降り給ふた目的は、此世を救ふ爲でありまして、畢生の力を其爲めに捧げられたのである、しかし、基督も亦普通の人と同じ樣に、三十年間親の家に在つて其仕度をなし給ふた、其間にも世の中の罪の事や、人が神から離れて居る事や、これを神に復歸せしむる事など、幾度か其胸中に浮ばなかつた事はなからうが、基督は其働に着手することを少しも急ぎ給はなかつた。

實に、基督の實際の働は、僅に三年以内に過ぎなかつたけれども、其準備時代ともいふべき期間は三

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

十年内外を費し給ふたのである。

それで、人の務は大切にすれば、するほど其仕度も亦大切なものであるが、然し大抵の人は何事をするにも、兎角十分の仕度をせない、或人は三年五年の學校の勉强さへも惜しむ、學校の勉强は其人一生涯の基礎を据えるのである、一生涯の長い年月を考へて見れば、三年五年の修業は何でも無い、此位の事さへも惜んで、生涯の大成を期するなどゝは、實に大なる心得違である。

準備なくして活動の社會に立つ人は、恰も、礎石を据えずして家を築かんとするが如し、斯る人は必ず仕度の不足を後悔するは明である、然し、其後悔するの日は最早及ばざの時なるを如何せん。

殊に此の點に就ては、今日の青年諸子に向つて注意したい、其家に在るの日、學校に在る日こそ、眞に大切なる準備時代であつて、此時を空過せば既に及ばざるの後悔を孕んだ生涯に入つたのである。

彼の種を蒔くものは、其芽が地上に萌え出つる迄は、何にも目に着くべきものは無い、けれども其の目に着かない期間こそ、即ち大切な時代であつて其間に於ける骨折は、やがて立派な穗となり實となつて現れて來るのである。

急ぐものは必ず事を仕損ずる、神の働を見ても如何に急ぐ風がないかゞ分る、若し神が此の萬有を作り給ふた經過を考ふれば、私共の勘定する能はざる長期を費して居る、神の千年は私共の一日の如しで其急がない所に其の御業の成果が現はれて來る。

思ふに、基督は此の秘密を了得して、先づナザレに三十年の修養を積んで、後に三年の間救世濟民の活事業を試みられた。

私共の弱點は、徒らに成功に急馳する、從て充分の準備なくして充分の活働を爲するが出來ない事に在る、「徐に急げ」とは、如何なることにも適切な教訓である、殊に基督の生涯を考へて見て、其然るを感ずる、苟も私共此世に立たんとするもの、宜しく先づ此點からして基督に學ぶべきである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

寛恕

わが信頼（たのみ）
わがなさけ
わがむねの
あぢきなく
ある夏の
ひとりわれ
緑なす
此所にこそ
人の愛
へだてなく
仇を爲（せ）し
人みなは
おもゝちは
はたらきの
冷えはてし
みどりなる
ともずみの
人みなは
ひとりだに

泡と消されつ
あだに應（あ）へれば
なやめるまゝに
友をばはなれ
日曜なりき
村の墓場の
丘さまよひぬ
（われは思ひぬ）
人の憎惡（にくしみ）
ひとつとなれる
仇を受けにし
時の來ぬれば
ともにやはらぎ
絶えにしむねに
手をばかさねて
しきゐすぐれば
われらが墓場
此所にいたれど
此所より去らず

かくおもひ
人の世を
われひとに
おほ浪の
たかぶりを
わなゝきつ

かしこみをそれ
はかなめるとき
かよへる悲哀（なげき）
よするがごとく
あらひつくせば
ゆるせりわれは

ホイチアー作
森田松榮子譯

會の消息

◎日本基督教女子青年會本部

▲ミス、リリアン、ワトネは東京基督教女子青年會幹事ミス、ワトネの姉君にして先年ロンドン大學醫科を卒業されしが、今回支那への途次來朝せられ、一月上旬當青年會本部をも來訪せられたり、支那には數年前よりなほ一人の姉君傳道し居らるゝ由にて今度其姉君を助くるために同地に赴かるゝなりと。

▲米國バサー大學卒業ミス、ボンは世界漫遊の途次當本部に立寄られたり、同大學は本會に對して深き同情を表し居るものなり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲前報告の如く横濱に於けるクラブ設立は、其後益進捗して今二月より開始の運に至りたり。

▲本部の事務員たりし三田靜子は一月より辭任につき原田ことお子暫時後任りたり。

◎東京基督教女子青年會

▲中央館建築及敷地費募集決定

我が東京基督教女子青年會にては、豫てより市内樞要の場所に中央館を設置せんとの希望ありしが、今回いよ／＼之れが設置計劃の決定を見るに至り、寄宿舍敷地費補充金と併せて其資金募集に着手する事となりたり、今其建設理由及募集資金豫算の決議せられたるものを掲ぐれば左の如し。

東京基督教女子青年會資金募集豫算案

委員　小室みさ子　今西糸子　小畑つきゑ　提出

一特別建築費及敷地購入費に關する件

右理由大意

イ、最近内務省發統計表によれば東京市内には一萬五千人の女學生に加ふるに三千人の看護婦並ひに諸種の會社商會其他の職務に從事する女子青年略ぼ五萬人ありといふ、然るに本會は從來主として女子學生間にのみ働き、對看護婦事業の如きも僅に數月以前より其一部分に着手せしのみにて實業界に於ける多數の青年女子のために特別に盡す所なき狀態に在り、此ヵ萬人の女子中には彼等のために特設の寄宿舍を希望するものあり、尚ほ又一日の業務の後高尚の娯樂と健全なる慰安を得んことを希ふもの、或は現に三番町女子青年會に於て催しつゝある諸研究會の如きものを要求し居るものあるは明なり、然るに今日に在りては本會は彼等の便宜を十分に圖り其要求を充すこと能はざるも又た明なり、依て彼等にもなほ又一般の女子の爲めにも便利なる場所に寄宿舍兼諸集會を開催すべき一の中央建築物を設立すべき必要は委員一同の深く感ずる所なりとす。

ロ、寄宿舍は勿論其維持を獨立ならしめ夜學其他研究會も多少の時日を經て自立するを得べし、然し斯る建物としては自然維持費を要するものなれば諸設備の具備する迄は少なくとも最初の二ヶ年間は補助せざるべからず、此期間に於てこの事業の社會より認めらるゝに至る時は贊助

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

者又は維持會員を得るに至らん。
ハ、市の地價は非常に高價なるを以て購入の坪數を減せんため家屋は三階建となさゞるべからず其二階を寄宿舍とし三階を事務所とし、最下を夜學其他に充つる時は一百坪乃至一百三十坪にて足れり。
ニ、本會々計は既に以上の目的の爲に外國より寄附し來りし金額（地所の爲金六千圓、建物の爲金八千圓）を有すれども此の金額にては土地購入は勿論建築にも到底不可能なり、加ふに地所の價格の騰貴急激なるを以て適當の土地見當り次第直に購入し置くべき必要あり、單に資金の調ふを待たんには後日徒らに高價の地を購入するの止むを得ざるに至るべし、依て土地の見當り次第建築費としての寄附金を暫時借入れ買收すべきを良策とす。
ホ、本會は安藤坂寄宿舍敷地費の負債金七千圓に對して今猶ほ金三千四百圓の未償却額を存す依て此際本會は諸般に必要の資金即ち中央館敷地購入建築費補足額金九千圓中央館二ヶ年間維持費金二千六百圓及負債償却金三千四百圓總計金額壹萬五千圓を募集せんと欲す其計算明細如左

	豫算額	現在額	募集金額
土地購入費	一〇〇〇〇、〇〇圓	六〇〇〇、〇〇圓	四〇〇〇、〇〇圓
（一坪凡そ八十圓とし百二十坪內外購入の假格）			
登記料	五〇〇、〇〇	—	五〇〇、〇〇
建築費	一〇〇〇〇、〇〇	八〇〇〇、〇〇	二〇〇〇、〇〇
中央館經費	二六〇〇、〇〇	—	二六〇〇、〇〇
（二ヶ年間維持費にして內譯明細は別記の通り）			
家具其他	二五〇〇、〇〇	—	二五〇〇、〇〇
負債償却額	七〇〇〇、〇〇	三六〇〇、〇〇	三四〇〇、〇〇
計	三二六〇〇、〇〇	一七六〇〇、〇〇	一五〇〇〇、〇〇

中央館二ヶ年間維持費假豫算は左の如し

電燈料	三〇〇、〇〇
燃料	三〇〇、〇〇
供給及修繕費	二〇〇、〇〇
保險料及諸税	三六〇、〇〇
幹事俸給	七二〇、〇〇
監督俸給	三六〇、〇〇
下僕費	二八八、〇〇
下婢給料	七二、〇〇
計	二六〇〇、〇〇

ヘ、目下一時に金一萬五千圓の募集は難事なるも今日迄我女子青年會の得たる寄附金額より見る

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時は本會が多數の信用と同情を受けしを證するに足れり、近來また本會への同情者其數を增したれば今回の擧は必ず成功を來すべし。依て左の決議案を提出して諸姉の參考に供し訂正を乞ひ以て採用されんことを希望して止まざるなり

決　議

一、即時（ミス、マシウ歸國前に）資金壹萬五千圓募集を開始する事
二、適當の地所見當り次第、建築費寄附金を借入れて購入すべき事
三、中央館（寄宿舍、集會所、事務所等を含む）建築設計に着手する事
四、事業報告書並に資金募集主意書を印刷し、委員一同運動を始むる事

（以下略）

▲工場クリスマス　一月十七日（土曜）午後一時より富士紡績會社工場に於て工場クリスマス祝會を催せり女子英學塾生徒有志の讃美歌工女一同の唱歌等ありて後、山室軍平氏の「クリスマスの意義」及「正直に働く必要」と題する御話あり、餘興としては蓄音器あり、猶ほ工女一同にカードを頒與し病院へ入院中のものには花をも贈りたり、員數は凡そ六百名ほど集りぬ。

▲クリスマス寄附金　左の寄贈を受けたり

金貳拾圓也　ミスター、ミラー
金六圓也　大西氏及び安藤坂寄宿舍生一同
金貳圓也　石川氏擔任聖書の組
金貳圓也　森田氏同上
金貳圓也　河井氏同上
金壹圓九拾錢也　加藤氏同上
金壹圓也　小橋三四子氏
金六拾錢也　矢島氏擔任聖書の組
金壹圓也　吉田梅子氏（看護婦事業へ）

▲新入會員　左の如し

クリスマスの際入會されしは
中村ツネ子　手塚カネ子　宮崎千代子
柳　八重子　村松石野子　林　ヒロ子
齋藤民野子　以上ミス、ワトネ擔任聖書の組より
一月中に入會されしは
藤浦初音子　三田花子

尚昨大正元年中に得たる入會員は八十三名にして本會に屬する會員現在總數は壹百八十二名なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

◎東北女子青年修養會

通信係報

落葉散り敷く大正元年十一月の末つ日、時は正に修養の好季たり、我が宮城女學校女子青年會は大なる神の惠と諸師の指導とにより、年來の希望を實現し得て、東北女子青年修養會を當校內に開會し、すべて求めしに勝りて與へられ欣喜と感謝を以て終始するを得たり。今其狀況を報せんに、

第一日（十一月二十九日）

聖書研究（午前十時―同十一時）

一組　山田先生　濶き道＝窄き道（未信者のため）

二組　梶原先生　約翰傳十二章

講　演

同志共同の意義　河井先生

朗々たる活辨を以て諭し給ふ事甚だ深刻なりき

正午より各先生の接見所に於ては質疑者踵を接し、是れ亦頗る有益なりき、

講　演（午後三時同―四時）

神の國　ミス、マグドナルド

流暢なる日本語にて懇々と說き給ひき、

講　演（午後七時）

祈　禱　山田先生

悠々迫らざる語調にて祈禱の如何なるものなるかより一婦人の非常なる苦痛と禍に際しても能く祈によりて節を全ふしたる例を以て諄々說述する所大に聽衆の蒙を啓けり

此夜來會者は定刻前既に立錐の餘地もなかりき

來會出席者約六百名

第二日（十一月三十日）

早天祈禱會（午前六時―同六時半）

寒さも厭はず熱心なる諸姉多く集まらたり

祈禱會（午前八時―同八時半）

受けたる惠を感謝し新き力を得んために祈れり

聖書研究（午前十時―同十一時）

一組　山田先生　前日の續き

二組　梶原先生　羅馬書第八章

講　演

自我の實現　出村先生

溫厚なる學者の態度にて現時代の問題となれる婦人運動又は覺醒せる女などと稱して舊來の束縛を脫せんとするは概ね歸着する所なきことにして生物進化の結果女子は矢張り女子特有の美

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

點美はしき感情卽ちイエスキリストが敎へられし犧牲献身の德を家庭に在りて發揮し善良なる妻たり母たるべきことを說かれたり

正午校舍玄關前にて來會者一同紀念撮影せり

講　演（午後三時）

神の住家　　河井先生

快活にして温情に富める先生は人間は人間以上の絕對者に對して信仰的修養を積むとが必要にて人は交る友により評價され又た其拜する者によりて高下が分る神を親愛なる者とし父として敎へられしはキリストより外になし、我々は心を淸くし神の住家とせねばならぬ殊に我々日本人は誠實高潔及愛の精神が缺けて居る、卽も此等の德は神を宿す所の德である云々と述べらる

講　演（午後七時）

社會改良と婦人　　山室先生

我々は此の世の中に生れ來りたる以上は何か善事をなして終らねばならぬ世の中は四海同胞で有つて正義愛純潔の行はるゝ樣にせねばならぬ次に婦人は惡事にも必ず携ると同じく善事にも携はらねばならぬさらば男子の社會改良を助けて何を務むべきか婦人は其立場によりて容易ならぬ働をなす例へばナイチンゲールがクリミヤ戰地に傷病兵をいたはりウキラード孃が婦人矯風會へ投せられし事など又妻となりては夫を助け子女をいたはる、彼のマーチンルーテルは貧にして妻あるは富にして妻なきに勝れりといへり又ブース大將は其夫人を我優雅なる妻と呼ばれたりき又母となりては其の子を敎育する事が非常に力あるものにて彼のアブラハムリンコルンは千町の田畑を其の子に讓るより一卷の聖書は遙に重きものなりと述べ、尙ほ先生の御尊母が山陰の山奥にて唯一の滋養品たる鷄卵を絕ち其子卽ち先生の立身出世を祈られし例を引き實に愛の力は強く女は弱けれど母は強しとを二時間餘の御講演、實に神の實在を覺え淚ある會合にて會衆皆な熱淚の滂沱を禁ずる能はざりき

來會出席者約七百名

●●●第三日（十二月一日）

美しき欣ばしき會合も既に二日を過して、今日一日を殘せるのみ、早天祈禱會も盛なりき

說　敎（午後二時）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人を救ふの力　　山室先生

如何にせば惡人を悔悟せしめて善行の人とならしめ得るか。法律によらむか否法律は唯外部の制裁のみ、或る人は貧にて鈍なりとされど富人玉を抱いて罪あり、かく惡をなす人は智慧教育の有無に關するに非ずさらば社會の制裁を嚴重にせば惡人は出でずといふものありと雖法律金錢教育社會の制裁倫理道德駄目なり、如何なる人にても宗教卽ち主イエスに歸依せば此所に初めて人の眞心と神の力とが合して新しき力を生ずべし、これ卽ちキリストの救なり第一我々のすべての罪をキリストの前に告白して悔改むれば我等の罪のため十字架につき給ふたキリストは其罪を赦し給ふかくて永遠の生命を與へ給ふ己が罪を聖書の鏡に照らして悔い神を信仰し親の如く愛して從へば其結果として善人に立かへり有用なる人物となり幸福なる生涯を送る眞の安心は外面に非ずして心の中にありかくて他の人が終生働きたるものを殘して死にゆく時基督信者は天に積める寶をとりて行くブース夫人の言葉に能く生きん事を務めよ死は恐るゝに足らずキリスト教徒は凱歌を奏しつゝ天に歸り行くいかに幸なるぞや云々

講　演（午後七時―同八時）

前途に光明ありや　　河井先生

我等が夜道に踏み迷ふた時唯賴りとなすものは光なれど其光が若し鬼火或は狐火ならば如何に失望するならむ然れども誠の光人をして希望と勇氣に充たしむものである。人が一の光明を目的として行く事は幸なる事なれども其光が大なる救の光ならんには如何に幸福ならずや。航海の船が遠き沖にて微かな光を認め其れを辿りて眞の燈明臺に來らば船人は如何程の喜ならん若し皆樣がこの集に於て何か光明をお認めになりしならば其を辿つて基督の救に入らむ事を希望す眞の光を只傍觀するのみにては却て滅亡を來すことあり宜しく其光に依り己が前途を照らして救の道に達せらるゝ樣に願ふ

來會出席者約七百名

夜靜まり宵あかりに青葉山の影かすかに講演益々しめやかに八時を過ぎ、斯て此の美しき三日間の會合も終りて引續き目出度く閉會式を擧げたり、あゝキ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

リスト我れにありて生くるなりとの確信を以て人生の行路を辿る人の如何に幸なる哉。我々は玆に神よりの大なる賜、無限の平和と最大の慰安に充されて主より賜はる活水に渴をいやし神に信賴し手に手をとりて十字架の御旗の下に正義の戰を戰はん心を堅くせり。たゞ惜むらくは我々の不行届にして遠來の諸先生また來會者諸姉に御不便の事多かりしを

本會經費總高金五拾五圓也

擱筆するに臨み我同胞姉妹達の盡力によりてかゝる美しき會合のまた何地にか開かれん事と其奮發を祈りて止まず

◎橫濱共立女學校女子青年會便り

拜啓御寒一入増しゆき申候折柄御會益御淸榮賀し奉り候當青年會も皆々樣の御盡力により追々發展致し候事感謝の極に候當校青年會にて慈善會てふ一部を設け會員一同一週一回づゝ共に働き居り候ふ事は既報の如くに候へども特に昨年十一月よりは大坂某工場の工女等への贈物を作るべく働き初め居候材料としては有志者により寄附せられたる古き絹布リボン洋服のサンプル等にて中には一寸四方さへもなき古切もこれ有り候へどもどうやら會員の手により纏められ只今までに花簪百十個、羽織の紐、帶止、袋たすきなど取り集め三十餘個其他半襟などの用にあてん爲め切のまゝにて呉服紙につゝみたるもの二十餘個出來申候誠に手のろき仕事には候へども數を重ぬる毎に思はざるよき結果を見るを得一同感謝しつゝ一入勵み居り候

願はくば此の働きが主の御祝福の下に眞の好結果を得て卽ち主の御榮の幾分かを表はすを得ん事を祈り居り候何卒御祈の端に此の會をも御覺え下され御助けの程御願申上候

末筆ながら益々御會の御發展を祈りあわせて皆々樣の御健康を祈上候先は右御報告までかしこ

新刊寄贈

○新女界第五卷第一號　小石川　新人社
○婦人の友新年號　雜司谷　婦人之友社
○護敎每號　靑山　護敎社
○福音新報每號　麴町　福音新報社
○婦女新聞每號　小石川　婦女新聞社
○常磐第十六卷一號　橫濱　常磐社
○婦人新報第百八十六號　日本婦人矯風會
○家庭週報每號　女子大學內櫻楓會
○基督敎週報每號　築地　基督敎週報社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

院長診察｛月、水、木、金、午前
　　　　｛入院診斷後應需

松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院

電話本局　八八八（病院用）
　　　　　八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二
御茶水橋附近

院長　醫學士　高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町相海濱
從停車場半里

南湖院

電チガサキ二番

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤

院長診察、土曜日午後、入院、診後應需

National Committee

Headquarters, 12 Tamachi Sanchome Ushigome, Tokyo

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kawai,
　　Active Member World's Committee
　　Chairman Women's Sub-committee
　　　World's Student Christian Federation
Miss Matsu Okonogi,
　　Editor "Joshi Seinen Kai"

Resident Member	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Uta Suzuki	Miss M. F. Denton, Kyoto
Miss Matsu Okonogi	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss N. B. Gaines, Hiroshima
Miss Tei Ninomiya	Miss Yoshi Kajiro, Okayama
Mrs. G. M. Fisher	
Miss Sarah Ellis	
Miss Chiyo Yamada	
Mrs. E. W. Clement	

Secretaries
Miss Michi Kawai, National
Miss A. C. Macdonald, National,
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret L. Matthew, General, Tokyo
Miss G. R. Watney, Associate, Tokyo
Miss Mary Page, Special Worker

部數	定價（郵稅共）	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五拾錢	金壹圓

廣告		
一頁	金六圓	
半頁	金三圓五拾錢	
半段	金貳圓	
一行	金貳拾錢	

大正二年一月廿八日印刷
大正二年二月一日發行

發行所　東京市牛込區田町三丁目十二番地　日本基督教女子青年會
編輯兼發行人　東京市牛込區田町三丁目十二番地　河井道子
印刷人　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤豁
印刷所　東京市赤坂區田町五丁目十一番地　齋藤活版所

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

努力の源泉

日日の祈

松本雲舟先生譯

定價四十錢

四六判總假名振

郵税六錢 ○市内四錢

日々の祈は、日々の力の源泉なり。すべての善行百徳は、日々の祈より来らざるべからず。本書は古今敬虔なる信徒の祈を網羅して、之を一ケ年三百六十五日に配當し、以て一般クリスチアンの祈禱の模範たらしめんことを期す。行文平易、しかも俗に流れず、されば老幼男女を問はず、之を讀み意に通ずべし。朝夕祈を忘れざる人々に敢てすすむ。

發兌 東京銀座 警醒社

振替東京 五五三

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

大正　年　月　日印刷納本　毎月一回十五日發行

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN

Joshi Seinen Kai

Volume V. *February, 1913* No. 2

World's Day of Prayer for Students — Miss M. Okonogi

The Noble Life — Rev. M. Uemura

About Christmas — Dr. I. Nitobé

Living with Christ — Mr. T. Shirai

The Kingdom of God III — Miss A. C. Macdonald

The Parables of Paul (I) — Rev. E. Kashiwai

Teachings from the Life of Christ — Ya Ma Sei

A Poem translated from Whittier — Miss M. Morita

Association Notes

National Y.W.C.A.

Tōhoku Conference

Tōkyō Y.W.C.A.

Kyōritsu Y.W.C.A.

The Official Organ of the National Committee of
Young Women's Christian Associations
of Japan

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA